



CIRのつぶやき

国際交流 国際理解教育 国際協力
国際観光 多文化 相互理解友好を図る



2026.02.01 第70号 アメリカン・ファッションの多様性①

ファッションは時代のセンスや、社会の状況に合わせて変わっていくものです。その変化を見ると、その国や社会のことをより深く知ることができると思います。また、私たちが今着ている服も、実際に何十年、何百年の努力や工夫で現在の形になりました。今月のCIRのつぶやきでは、アメリカのファッションが時代とともにどのように変わったか、そして日本とのファッションを通じた交流について紹介します。

他の国と比べると、アメリカはわりと若い国なので、最初に入植した人のほとんどがヨーロッパからの移民でした。そのため、アメリカ初期の100年間に、多くのファッションデザイナーが直接イギリスやフランスなどから伝わりました。しかし、新しく建国されたばかりのアメリカの生活は大変だったので、よりシンプルなファッションが流行しました。自分の好みに合わせて服を作ることが一般的でした。デザイナーはあまりいなく、ドレスメーカー(仕立屋)に頼んで、好きな色や飾り、襟やそでの形を自分で選んで作ってもらいました。1800年代の半ば頃から、産業革命が起こり、以前より洋服がはやく作れるようになりました。自分でデザインを選ぶより、決まったサイズとデザインの洋服を作るデザイナーの仕事が増えました。そのようにして「アメリカン・スタイル」はだんだんと形づくられていきました。

NO. 70 FASHION・FAS



1920年代に、大きな変化が起こりました。「アール・デコ」というデザインスタイルが生まれて、アメリカはこれまでに見たことがないファッションスタイルを作る最先端の国になりました。そして、1930年代から1950年代まで、新しく作られた「アメリカン・スタイル」というアイデアがだんだんと変わってきました。世界大恐慌と第二次世界大戦の影響で、ファッションは「センス」よりも「使いやすさ」と「動きやすさ」の方にフォーカスされました。1960年代になってからは、社会の状況がファッションに影響を与えることがはっきり見えるようになりました。公民権運動やベトナム戦争に反対する抗議運動で、多くの人が「自分の声を使って社会を変えたい」という気持ちを持っていたので、派手な服を通して、「自分は今、社会に参加しているよ」という気持ちを強く示しました。70年代にも、自由と平和主義のヒッピーの影響で、ファッションでもリラックスしたデザインが増えました。





2026.02.01 第70号 アメリカン・ファッションの多様性②

1980年代には、派手なファッションが大人気になりました。一方で、1990年代になると、もっとシンプルなファッションが人気を集めました。典型的な服装はオーバーサイズ・ジーンズと白いTシャツの組み合わせで、「アメリカ人の制服」になったと考えられています。2000年代に進むと、アメリカのファッションスタイルはだんだんカジュアルな方向へ向かいました。2010年代には、「athleisure」(アスレジャー)という新しいスタイルが生まれました。普通ならジムで着るような服が普段着になったということです。現在、インターネットのおかげで、アメリカのファッションは以前より自由と多様性があります。



現在、アメリカで日本のファッションとブランドは大人気です。一番人気なのは「ユニクロ」です。アメリカで、ユニクロは「日本ならではの高品質な商品」というイメージがあります。シンプルで毎日着ることができ、何年間着ても綺麗な状態のままです。日本旅行に行くアメリカ人にとって、「オニツカタイガー」のスニーカーはすごく憧れのアイテムです。

日本のファッション・サブカルチャーもアメリカだけじゃなく世界中でだんだん人気になっています。特に大都市に行ったら、ロリータや、ギャル、地雷系などのファッションを着ているアメリカ人を絶対に見かけるといいます。日本風のストリートスタイルもすごく人気になっています。憧れのブランドがアメリカでメルカリや転売サイトですごい値段で販売されています。最近の日本旅行ブームのおかげで、アメリカで日本のものは大人気になりました。もちろん、逆もそうです。アメリカのブランドとスタイルは日本でも人気です。「アメカジ」というサブカルチャーを見つけて、アメリカ人としてびっくりしました。こうした交流を通して、やっぱりファッションは素晴らしい国際交流の機会になるのだと感じます。

